



せいしょうくん便り

平成 28 年夏の思い出

暑い暑い大島の夏が過ぎようとしています。今年の夏を振り返ってみましょう。

～夏だ！海だ！大島夏祭だ！～

【観客歓喜の大島夏祭り】

病棟・治療棟看護師長 新上 仁美

3年ぶりの大島夏祭り、みんなで楽しもうと思った。続く猛暑の中、会場設営・祭りに花を添える浴衣を着付け・踊りの参加で汗みどろ。体臭が気になったが、有意義な参加ができた。イベントを楽しむ入所者さんが、満面の笑顔でハイタッチをしてくれ、私も心から楽しめた。一般参加の医療職として働く娘が、「大島の祭りっていいなあ。患者さん、絶対喜ぶわ。うちの病院もこんな催しがあったらいいのに。」と羨ましがっていた。入所者さんにトラブルがなく安全に祭りを終え、関わった全ての人に感謝である。



-2016-
夏の思い出



【夏祭りに参加して】

病棟・治療棟看護師 西岡 仁美

「まだ、来んなあ」今か今かと目を輝かせていた入所者さん。私もワクワクしながら祭りの始まりを心待ちにしていた。遠くの方から祭囃子が近づいて来るにつれ、童心に帰っていった。軽快なリズムに乗って、阿波踊り、よさこい、大島連、一合ました。と大変賑やかだった。法被や浴衣姿で祭りムード一杯。やがて辺りはとっぴりと暮れ、大音響とともに、びっくりするくらい大きな花火が夜空に上がり迫力満点！！心が踊った。気が付くと、あちこちで夏が始まり、島全体が笑顔に包まれていた。久しぶりに心癒されるひと時を過ごすことができた。

竹藪から伐採



～大島の竹で、そうめん流し～入所者さんの喜ぶ笑顔一杯

船と軽トラで運びます



竹を削って削って、組み立て



楽しいそうめん流しの完成



今年も3センターのそうめん流しが行われました。大島の竹で作るそうめん流し台は、竹藪からの伐採、船・トラックを使って搬入し、入所者さんと看護師・介護職員との力作です。薬味やめんつゆを入れる器も手作り、そうめんだけでなく、うどんやそばも味わいました。「おいしい」と笑顔で食べる入所者さんを見ると職員も笑顔になります。3センターの入所者さん・職員だけでなく、希望された入所者さん・職員、協力した福祉の職員もおいしく頂きました。みんなの笑顔は、頑張った入所者さんと職員の喜びになりますね。

大島青松園の各部署紹介

今回より看護課だけでなく、大島青松園の各部署を紹介します。第 1 回目は、何と言っても日頃からお世話になっている「船舶」です。

常日頃より船舶の安全運航につとめています。船は車と違い機敏性に欠けブレーキなどはありません。特に船の入出港時は、潮流・風向・風力・速力・船の惰性・船の性能など数多くの要素を考慮しなければならず、専門的な知識と経験が要求されます。

また、大島港に於いては干満差が大きく利用者の方には、乗下船時にご不便をおかけしていると思います。入所者の方で車椅子、視覚障害者の方が「まつかぜ」に乗下船される際には、潮位（潮の高さ）により安全に乗下船ができる様に心がけており、事前にその旨の情報があれば助かります。

乗務員も民間船等で経験を積んだ者ばかりで、冬場の季節風時（強風）、濃霧、台風接近時は、運航するのか？欠航するのか？その判断も勇気が要る事です。表現がオーバーかも知れませんが、利用者の生命預かる者として海難事故で利用者ご本人、そのご家族を悲しませるわけには行きません。安全第一を最優先しております。



今年も多くの学会で、日頃の介護・看護の成果を発表しています。発表・参加した職員の感想を掲載します

第 89 回 日本ハンセン病学術大会で発表しました

2-1C 山尾 日登美

2年間取り組んできた看護研究「後期高齢者となったハンセン病回復者の生きがい」の発表のため、日本ハンセン病学術大会へ参加いたしました。開催地は栗生楽生園がある群馬県草津町で、風光明媚な環境の中行われました。発表は温かく聴いていただけ、示唆を含めた感想を頂いたり大変勉強になりました。歴史保存的な内容の発表も多く、ハンセン病の歴史を後世に語り伝え残していく大切さを感じました。翌日は国立療養所栗生楽生園を訪問し、重監房資料館館の見学や納骨堂の参拝を致しました。重監房は昭和 13 年から 9 年間、特に反抗的とされた 93 名のハンセン病患者が収監された場所です。（資料館ガイドより）近年オープンした重監房資料館では、復元された監房の様子が体験できます。現在、重監房は木々の中、静かに跡地を残すのみですが、ここでの過酷な収容に思いをはせ、ご冥福をお祈りしました。今回、コ・メディカル学会とは違った場における新しい経験をさせて頂きました。

第 84 回 瀬戸内集談会に参加して

治療棟 川東 茂雄

今年の瀬戸内集談会は国立療養所呂久光明園の担当で、会場は岡山駅から歩いてすぐの「ピュアリティまきび」で行われました。非常に蒸し暑い日でしたが、一般口演や特別講演でのセッションも熱いやりとりがありました。大島青松園からは、シンポジストとして大敷副看護師長、座長として藤本副看護師長が参加し、3 名が演者として研究成果の発表を行い、ハンセン病療養所に携わる人たちに新たな知見と今後の指針を学べたように思います。

今回のテーマは「エンドオブライフケアを考える」であり、まさに今、大島青松園が直面している課題であります。現在高齢化が進んでいる中で、最後まで入所者さんの思いを尊重しながら自立を支援し、入所者さんの思いに寄り添ったケアを実践することの認識を新たに集談会でした。



編集後記：

今年も暑い夏でしたね。夏祭りが終わると何だか寂しい感じがします。今度は、秋・冬に向けて入所者さんが笑顔になれることは？と考えています。原稿依頼の際にはご協力ください。また、ホットなニュースがありましたら、担当者にご連絡ください。 副総看護師長 土居

国立療養所大島青松園

〒761-0198 香川県高松市庵治町6034-1

TEL 087-871-3131 FAX 087-871-4821

URL <http://7301s001.ocsimasei.nhds.go.jp/>

発行者 看護課ホームページワーキンググループ